

去勢抵抗性前立腺がんに対する プルヴィクト治療を開始しました

当院では2026年4月より、転移性去勢抵抗性前立腺がんに対する放射線内用療法
の治療薬「プルヴィクト」の投与を開始します。

プルヴィクトは、前立腺特異的膜抗原（PSMA）陽性の遠隔転移がある去勢抵抗
性前立腺がんのお薬で、放射性リガンド療法という治療に用いられます。

プルヴィクトを注射して、からだの中で放射線のがん細胞へ照射する治療です。

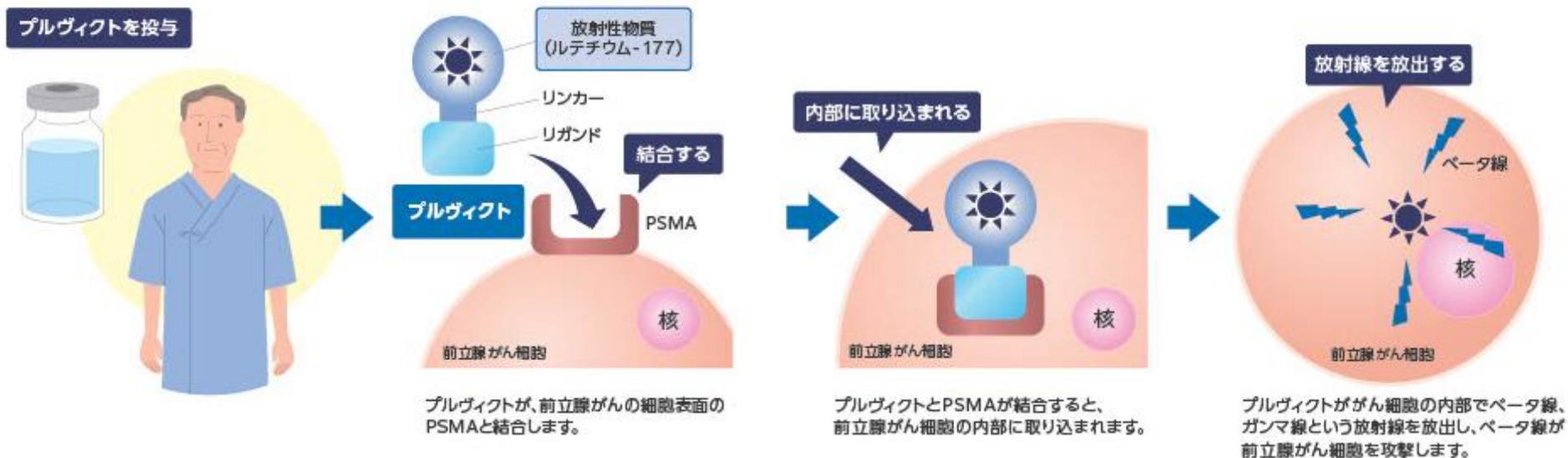
プルヴィクトによる放射性リガンド療法とは

- プルヴィクトは**2025年9月**から使えるようになった放射性リガンド療法のお薬です
- 放射性リガンド療法とは、放射線を放出するお薬を投与して、からだの中で放射線をがん細胞に照射し、がん細胞を攻撃する治療です
- プルヴィクトは、前立腺がん細胞に多く発現する**PSMA**と結合し、がん細胞の内部に取り込まれ、ベータ線およびガンマ線という放射線を放出します

プルヴィクトが放射線を放出することで前立腺がん細胞を攻撃します

プルヴィクトの働き(イメージ)

※ノバルティス社提供資料より



治療の対象となる方

プルヴィクトによる治療の対象は、**PSMA**が陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺がんの患者さんです

- プルヴィクトが投与できるのは、**PSMA**が陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺がんの患者さんです
- PSMA**陽性とは前立腺がん細胞の表面に**PSMA**が存在している状態のことをいいます
- プルヴィクトによる治療を開始する前に専用の検査（**PSMA-PET**検査）を行い、**PSMA**が陽性であることを確認した後に治療を行います
- 以下のような治療歴のある転移性去勢抵抗性前立腺がん患者さんが対象です
 - ☑ **I**種類の新規アンドロゲン受容体シグナル阻害薬（**ARSI**）を使用し、化学療法を行っていない方
 - または
 - ☑ **ARSI**と化学療法を実施済みの方

* 転移性去勢抵抗性前立腺がんと診断される以前に、転移性去勢抵抗性前立腺がんの治療として**ARSI**や**ARSI**と化学療法を使用されていた方も対象となります

プルヴィクト治療のスケジュール（治療全体）

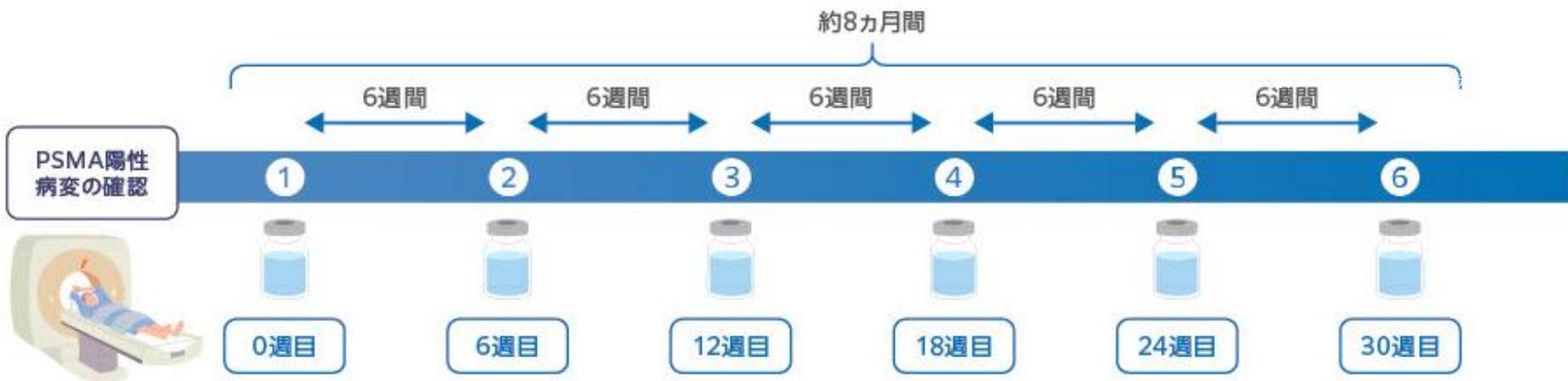
プルヴィクトは、**6週間ごとに6回投与し**、**治療期間は約8カ月間**です

○プルヴィクトは、**6週間ごとに計6回投与**します
全体の治療期間は**約8か月間**となります

○副作用が現れた場合は、投与を中断したり、プルヴィクトを減量したりすることがあります

プルヴィクトによる治療全体のスケジュール

※ノバルティス社提供資料より



プルヴィクト治療のスケジュール（各投与日）

プルヴィクト投与後、からだから放出される放射線量を測定し、一定基準以下になるまで入院します

- ①核医学検査室にてプルヴィクトを投与します
- ②投与後、特別措置病室に2泊3日の入院となります
- ③退院日に放射線量を測定し、退出基準判定をします ※退出基準：16 μ Sv/h以下（at 1m）
- ④核医学検査室にてガンマ線イメージングを行い退院となります

プルヴィクトの投与の流れ

※ノバルティス社提供資料より



プルヴィクト治療を希望される方へ

○お問い合わせ先

福島県白河市豊地上弥次郎2番地1

白河厚生総合病院

- ・ 医療機関の方：地域医療連携室 TEL 0248-22-2262

※一般の方は主治医にご相談の上、地域医療連携室へお問い合わせください

当院では、プルヴィクト治療以外に

- ・ 131-ヨウ素 (^{131}I) による甲状腺がんおよび甲状腺機能亢進症の治療
- ・ 223-ラジウム (^{223}Ra) による去勢抵抗性前立腺がんの骨転移治療
- ・ 177-ルテチウム (^{177}Lu) による神経内分泌腫瘍の治療

も行っております

県内でも有数のRI治療を行っており、安全で質の高いRI治療を提供しております

お気軽にご相談ください